

札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会第12回総会

日 時 令和7年7月17日（木）14：30～16：00

会 場 ORE札幌ビル 8階 会議室1

次 第

1. 開 会

2. 議 事

次期運営計画の策定について(5)

3. 閉 会

1. 開 会

○石井会長 定刻となりましたので、ただいまより第12回札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会を開催いたします。はじめに事務局からお願いいたします。

○事務局（藤田） 保健福祉局ウェルネス推進部施設管理課長の藤田でございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

まず、議事に入ります前に、本日の出席の状況ですけれども、本日は堂本委員がご欠席ということです。中島委員は遅れていらっしゃるということですが、9名の委員の方にご出席いただくことになります。本日の会議につきましては、報道機関2社、北海道新聞さん、北海道建設新聞さんが傍聴しております。会議資料ですとか、議事録については、これまで通りホームページにて後日公開いたしますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、お手元の資料を確認いたします。事前にお送りした資料といたしましては、第2次札幌市火葬場・墓地に関する運営計画（前回の総会からの修正案）の1点です。本日お配りしているものにつきましては、会議次第、委員名簿、座席表、クリップ留めのスライド資料となっております。不足はございませんでしょうか。事務局からは以上となります。

2. 議 事

○石井会長 それでは議事を進めさせていただきたいと思います。お手元の式次第に沿っていきたいと思います。「次期運営計画の策定について（5）」について、まず事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。

○事務局（高橋） 本日の議題は1件となっております。次期運営計画の策定についてです。今回で5回目となりまして、協議会で議論いただくのはこれが最後となります。

では、3ページをご覧ください。策定までの流れとスケジュールは以前よりお示ししている通りです。前回6月20日の総会では、第2次計画の修正案についてご意見をいただきました。本日は再度修正した計画案をお示ししています。前回と同様にスライド資料にポイントをまとめておりますので、こちらで説明させていただきます。本書については必要に応じてご参照ください。

では、4ページをご覧ください。前回いただいたご意見について、テーマごとに分類し、類似意見はまとめて、左側に番号を振っています。右側に札幌市の考え方を回答として記載しており、計画の修正を行ったものは、このページ数を記載しておりますので、必要に応じてご参照ください。一部については、表の下部に修正案を記載しております。では、まず第1章のところで、計画策定の目的・趣旨について、お墓の問題は、子や孫への負担よりも承継者がいないことが主な理由であり、そのことを記載するのが良いというご意見をいただいております。これについては、承継者がいないという理由に修正をしております。

続いて、5ページをご覧ください。ここから、市民の意識醸成に関するご意見となっております。

まず2番ですが、発信・把握したい内容について、漠然としたものではなく、具体的な内容を膨らませて書く方が良いというご意見です。そのため、発信・把握したい内容について、

具体的な内容を例示する形で記載しました。表の下部に抜粋しております。

3 番です。終活という言葉は時代によって意味が異なっているため、計画ではあまり使わない方が良いのではないかとのご意見です。これについては、終活についての脚注をつけて、計画の中での定義を明確にした上で使っていきたいと思います。

4 番です。対象を広げて若い人をターゲットにするのであれば、終活ではなく別の言葉を使用した方が良いというご意見です。これについては、まず近年は終活以外に「生き活」や「デス活」など多様な表現がされるということを記載しました。そして、成果指標における表現は単に「イベント」としております。

6 ページをご覧ください。5 番ですが、若い人向けの企画に関するご意見をいろいろいただきました。これについては、今後の企画の参考にさせていただくこととし、2 次計画では具体的内容までは記載せずに、企画を検討するといった記載にとどめたいと思っております。

7 ページをご覧ください。ここから多死社会に対応した火葬場に関するご意見です。成果指標に関するご意見で、前回の協議会ではたくさんご議論いただいたところでございます。友引の平均火葬件数については、目標中の設定が難しく、また標準偏差は見た目に伝わりにくいというデメリットがありました。そのため、平均火葬件数に対する友引翌日の平均火葬件数の割合というのを新たな案として提案したいと思っております。

詳細は次の 8 ページをご覧ください。まず、①から③まで書いておりまして、①の友引の日の平均火葬件数ですが、これを成果指標にする場合は、目標値 15 件とし、控えめな数字として設定し、増えていくよう努めると考えました。しかし、平成 19 年、20 年の里塚斎場大規模改修の際の山口斎場での実績は、この件数を上回っているということもありまして、友引に開場して、今後全体の火葬件数が増えるだけで、自然に達成する数字となってしまう可能性があります。次に、②の友引の日以外の日の標準偏差ですが、現在値を計算したところ、20.0 件でした。目標値を定めると、12.1 件としておりまして、これは友引が休場のために件数が多くなる友引の前日および翌日を除いたデータから算出した標準偏差となっております。③ですが、平均火葬件数に対する友引翌日の平均火葬件数の割合です。これは、平均よりも件数が多い友引翌日の件数を減らすことを目指して設定したもので、件数ではなく割合を使用するため、総火葬件数が増えた場合にも平常化効果を図ることができるものとなっております。現在値は、平均火葬件数が 86.6 件で、友引翌日の平均火葬件数は 116.7 件なので、割合としては 136.7%となっております。これを、100%を超えている部分を半分に減らすというのを目標とし、117%を目指します。現在の火葬件数で考えると、友引翌日が 101 件以下、つまり 15 件程度ということで、目標を達成できるというものとなっております。

続いて 9 ページをご覧ください。ここから少子高齢社会に対応した墓地に関するご意見となります。7 番ですが、1 次計画の評価について現在値が検討中のものが複数あるが、評価が異なるものがあるので理由を記載した方が良いというご意見でした。これについては下部に注釈を記載し、理由がわかるようにしております。

8 番です。1 次計画で示した合葬墓の受入上限数を超過する見込みであることから、新しい合葬墓が完成するまでの暫定対応などを 2 次計画に記載すべきというご意見でした。これについては、現在の合葬墓について、埋蔵可能数を増加させる措置を行うということを記載しております。表の下部に記載を抜粋しております。

10 ページをご覧ください。火葬件数と引き取り手のない遺骨の割合のグラフを載せましたが、引き取り手のない遺骨の件数の表示や説明文などに関するご意見となっております。これについては、引き取り手のない遺骨の数をグラフの下に掲載し、説明文も追記しました。表の下部に抜粋しております。また、意識醸成のパートである 45 ページに引き取り手のない遺骨の増加について周知していくということを記載しております。

11 ページをご覧ください。10 番ですが、市営霊園の再公募に関して、市民ニーズを最優先するような書きぶりにすべきというご意見でした。これについては、市民ニーズ等を考慮しながら、墓地供給のあり方について検討し、再公募等を実施していくという記載に修正をしました。

11 番ですが、市営霊園の返還について、返還の横に墓じまいという言葉があるが、墓じまいするよう指示しているように見えてしまう可能性があるため、不要ではないかというご意見でした。これについては、墓じまいという言葉は削除しております。

12 ページをご覧ください。12 番です。旧設墓地の維持管理の関係で、市営霊園の再公募の際に旧設墓地使用者に移ってもらい、旧設墓地の整理を進めていく方法を検討してはどうかというご意見でした。これについて、旧設墓地の管理方法についての具体的な方法は、2 次計画期間中に検討を進めたいと考えております。

最後、13 番です。旧設墓地の管理方法について、将来の方向性も含めて検討すると記載すべきというご意見、また、スケジュールに合わせて本文にも土地利用や計画について検討し、決定しますなどと記載すべきというご意見でした。これについては、旧設墓地と一口に言いましても、17 か所の墓地があり、それぞれ周囲の環境などが異なることから、旧設墓地の維持管理方法や市民利用のあり方について多角的に検討するということを記載しております。また、方針を決定しますと記載しております。説明は以上です。

○石井会長 ありがとうございます。ただいまのご説明につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。前回、いろいろとご意見を出していただいたことに対して、大体のところはそれなりに答えをいただいております、修文はしていただいているかなと思います。今日で最後ですので、一言ずつ、澤さんからご意見いただけますでしょうか。

○澤委員 合葬墓のことなんですけど、いっぱいになったら、埋蔵可能数を増加させる措置って書いてあるんですが、これ現在の合葬墓、例えば、平岸霊園の合葬墓と名前を入れることはできないのでしょうか。新しい合葬墓は、里塚の合葬墓と書く。名前を入れないと、また平岸の中で新しいものを作るのではないかと思う人が出てきたりすると思います。

○事務局（藤田） 里塚の方で新合葬墓というところで計画を検討しているところですが、

まだ正式に決定しているわけではありません。ただ、平岸の現在の合葬墓の容量を増やすという点については、もちろん書き込むことは可能です。

○石井会長 要は、新しい合葬墓をどこに置くかというのは、腹案はあるけれど、全然何のオーソライズもしていないということですね。

○事務局（藤田） そこを進めているところなんですよ。そのあたりを。なので、市営3霊園のところ、どこかという言い方はちょっと難しいですが、上手い書き方ができればと思います。

○澤委員 結構、関心がある方がいらっしゃるんですよ。今のところが満杯だっていう噂がいっぱい出ているので、満杯になったらどうするんだろうとか、入れなかったりとか。ある方が、一部の業者さんから「札幌市ではもう新しく作りませんよ」と言われたそうで、「作らないんだって」と、すごい心配されていたので、「いや、そんなことはないと思う」と。だから作るなら作るで、きちんと書きちゃったほうがいい。

○石井会長 少なくとも、新しい合葬墓を作るとは書いてあるんですよ。

○澤委員 例えば、平岸に家族が入っていて、当然自分たちの家族が平岸に入るものだと思うていたら、今度はどうも里塚って、じゃあ家族がバラバラになる。それは、最初からしょうがないって決めて入れていると思うんですけど。

○石井会長 個別の期待には、この計画は応えない方がいいかもしれませんので、逆に具体的なことについて心配を惹起するような話はしない方が良くかもしれません。実際、設置プロセスの中でこちらが良いとかあっち良いとか、こっちは反対だという話が全くないとは、言えないということですよ。だから、ちゃんと決めてから、どこに設置するということを言わないと、決定プロセスが歪んだりしたら困るかもしれません。新しい合葬墓を作るということは、コンセンサスがあったので、それは書いてありますから。でも、そういう話がやっぱりあるんですか。

○澤委員 そうなんです。つい先週も、「もう札幌市は合葬墓を作らない、そんな話があるんですか」と。

○石井会長 それはちゃんと書いてありますから。でも、やっぱり現実的な話で、気になるんですよ。ありがとうございます。他はよろしいですか。福田委員、お願いします。

○福田委員 それでは今、合葬墓の話が出ましたので、いろいろあるのですが、とりあえず合葬墓に絞って意見を申し上げたいのですが、その前に、引き取り手のない遺骨について、前回いろいろ意見を申し上げましたが、実数をちゃんと載せていただきまして、その辺は大変感謝いたします。それで、前々から問題になっております受入条件の話ですね。札幌市民としてお亡くなりになった方の遺骨について、現在管理している人が札幌市民以外では受入の対象にならないということで、いろいろ議論しました。それで、この計画で言うと 34 ページ、61 ページあたりなんですけど、少し書き様を整理していただけないかと思いますが、34 ページを見ますと、札幌市民として亡くなくても親族の方が市外に居住しているケースの利用希望もあり、それらのニーズへの対応について検討が必要です、と書いてあります

ね。それ以外に何も書いてなくて、おやおやと思ったのですが、検討が必要でして、もう随分検討しているのに、これだと、検討していないんじゃないかと思われてしまう。これから検討しますよ、必要ですよ、というふうに取られてしまうので、ちょっと誤解を生むのではないか。あと 61 ページに行くと、利用条件の見直しを検討しました、とあるんです。ここに来てようやく、検討したんだね、ということが分かるわけですね。ただし、利用条件の見直しを検討しました、で終わっていて、検討して一体どうなったのか。検討したけど、それはダメだったよね、いいんじゃないのという、両方あるわけですよ。その中間もある。そのあたりは、検討しました、としか書いてない。ちょっと以前の話になりますけれども、既に墓地部会で、札幌市としてお亡くなりになった方について、どうするか。それが 2022 年 12 月、事務局から案が出ていて、札幌市民、それからいわゆる事実婚の問題、それからパートナーシップということも含めて、見直し案が出ているわけですよ。このぐらいまでは検討しました、ということを書き記しないと、非常に後退した印象を受ける。もう 1 回最初からどうするんですか、というふうにも思ってしまうので、この 2022 年 12 月に大体集約、ここは決議機関ではないので表現としては、大体これでいいんじゃないでしょうか、こういう方向性を概ね確認したというぐらいでしょうか。そのいくつか、札幌市民としてお亡くなりになった方、事実婚の関係にある方、パートナーシップの方、このぐらいは列挙して、ここまでは検討したんだけど、その細目についてはまだなので、引き続き、これをやります、というような書きぶりをしないと非常に誤解を生むのではないかと思います。ということで、まだ時間がありますので、ぜひ表現の整理をご検討いただければと思います。それと、この新しい条件での受け入れをいつやるのかという話ですが、1 年前に前の部長さん、金綱さんに、札幌市民としてお亡くなりになった方も受け入れるという方向性が出ていたけど、どうするんですか、いつやるんですか、と聞いたところ、それは新しい合葬墓の整備と併せて、検討を実施していければと考えております、こういうふうにおっしゃられた。ここは国会答弁ではありませんので、大局的に考えたらいいと思うんですけど。ただし、これを素直に受け止めますと、新しい発想を持って、今、澤さんから、あれどこにするの、というような話がありましたけど、2029 年度ですか、作られるのは。これ見てみますと、新しい合葬墓を作るときには新しい条件にするよってということなんだから、2029 年度、つまり、既に墓地部会で 2022 年度に方向性を確認してから、もう 7 年ぐらい経ってしまいます。そういう理解でいいのでしょうか。それとも、あんまり時間がかかりすぎているので、もう少し前倒しで取り掛かりたいというようなお考えがあるのかどうか。この辺はいかがでしょうか。

○事務局(藤田) できるところから速やかにやっていきたいと思っています。委員がおっしゃった通り、当初は新合葬墓の運用が始まる時を目途に考えていたのですが、早く取り組めそうな部分があれば、全部一度になるかどうかかわからないですが、合葬墓の整備は当初の計画より遅くなってしまっているの、早めに取り組めるところから取り組んでいきたいという考えがございます。

○福田委員 合葬墓の件は、今の澤さんのお話もそうなんですけれども、計画と言いながら、非常に曖昧な書き方になっています。いつ、どこで、どんなものを作るのか、どんな形態で、作る大きさはどのくらいなのか、触れられていないですね。そのあたりは、計画と言いながら、どうなんだと。計画と言ったら、決め打ちはまだできないけれども、例えば時期については、なるべく早くやりたいとか、大きさについては、現状のもの、あるいはさらに大きいものとか、そういうことを念頭にとかね。なかなか今、断言できないという事情はよく分かりますけれども、なるべく踏み込んで書くようにしないと、これ本当に計画なのって言われてしまうのではないかな。そのあたり、全般的なものですかね、合葬墓だけじゃないんですけども、もっと踏み込んで計画と名を打つのであれば、書き様の問題で、こういうことを念頭にとか、こういうことを目指してとか、そういうことでいいので、踏み込んだものじゃないと、計画というのはちょっと、という感じを受けますね。スケジュールを見ると余裕がありそうなので、是非ご検討いただければと思います。

○石井会長 役所言葉だと、切れ目なく市民が合葬墓を利用できる体制を作る、と言って、時期のことは言っているわけですよ。要するに、不都合が生じないタイミングでは作るという意味ですから、いつ不都合が生じるか、実際上は埋葬可能数を増加させると、いつまで使えるかは、よく分からないということです。多分、ロジックで言うと、今のところそういう話になっていると思うんですけど、そういうことですよね。

○事務局（藤田） そうですね。書いているとおり、新合葬墓については、2029年度からというところは、目指しているというか、そこまで切れ目なく受け入れられるような措置を取るということです。

○福田委員 これについては終わりますけど、もう一言を言えば、役所用語っておっしゃいましたが、それは分かるんです。だからこれは内部の計画、つまり市が作った計画であると同時に、市民の方に配って、公開して理解してもらう、両方の性格があるわけですね。ということは、どちらかに重点を置くかということ、やっぱりこれは市民に分かりやすく、一般の人に分かりやすく。役所、行政に詳しい人は読んでわかるんですけど、あまりそういうことに詳しくない人も分かるように書いていただきたいなと思っています。

○石井会長 新たな合葬墓というのは、計画期間内にはできることになるでしょうか。

○事務局（藤田） 基本的には計画期間内にできることになります。

○石井会長 本計画期間中を目途に設置することを検討しているとか、少し時間の概念が具体的に読み取れるということは、少なくとも考えていただいた方が良いでしょう。何のことか分からないということは、福田さんのおっしゃる通りなので。少なくとも、この計画期間が2031年までですから、それまでにはできますと。

最初の話も、結局、問題点としていろんな問題を挙げて、多様化するニーズに対応できるようにということを解決するということだから、繋げてはいるのですが、どこまでやるかという話はおっしゃる通り伝わらないので、少なくとも問題点として挙げていることぐらいはやるんだということが読み取れる表現にしないと、意図が伝わらないというご指摘だと思います。

います。前のページを受けるんだったら、前述のような多様化するニーズに適切に対応できるようになど、少なくとも具体的にどこを引用したかみたいなことが分ければ、そのことをやるという意味にはなりますから、そこについて少し分かりやすい表現をお考えいただくということをお願いします。

○事務局（秋田） 61 ページに利用条件の見直しということで、第1次計画においては市民ニーズを踏まえ「札幌市民として亡くなった方の遺骨」等の受け入れに向け、利用条件の見直しを検討しました、ということで、書いてはいるんですよね。第1次計画の検討結果、その実現に向けて詳細な条件等の検討を行い、見直しを実施しますと書いてあるので、福田委員のおっしゃるようなことは一応書いてあります。

○福田委員 どこですか。

○事務局（秋田） 61 ページに。

○福田委員 「札幌市民として亡くなった方の遺骨」等の受け入れに向けて見直しを検討しました、ということですか。それは私も分かっています。だから先ほど言ったのは、パートナーシップや事実婚なども含めて、具体的に書いた方がいいだろうということです。

○事務局（秋田） この「等」がその意味合いなのですけど。

○福田委員 「等」と言ったって、それは分からないでしょう。論議に加わっていない人が「等」なんて分かりますかね。

それともう一つ言いたいのは、その前の下りで、検討が必要です、っていうふうになっているので、私はそれだけ見ちゃうと、検討していないのではないか、これから検討するのかというふうに誤解されかねないので、その辺はきちんと整理した方がいいと思います。

○石井会長 後ろの方が各論なんですね。だから基本的には平仄が合わないダメだという話だから、その意味では平仄が合っていないという感じですね。前の方は、検討は必要だとはしか言ってなくて、後ろの方は、一部は検討したと言っているという意味です。平仄として合わせなくてはいけないということで、その通りです。その話で随分議論しましたから、具体的に書ける範囲のところを少し考えていただいて、少なくとも方向付けできないことまで書けとは言いませんけど、ある程度見えているところはあると思うので、そこについては、できれば具体的に記述をちょっと考えてみてください。よろしいですか。では、山上さん、お願いします。

○山上委員 私、前回欠席しているので、ちょっと議論についていけないところはあるんですが、今お話しのあった2029年度の新しい合葬墓の前に、受入可能数増加の措置について、これって数として実際どこまで増やせるんですか。

○事務局（藤田） 新合葬墓のスケジュールについては、2029年度から供用開始するということで、それまで受け入れられるぐらいの容量を確保するというで考えています。

○山上委員 それは可能なんですか。

○事務局（藤田） 可能だと思います。

○山上委員 この35ページの予測数値だと48,896体となっていて、今、福田委員がおっし

やったようにパートナーシップの方や事実婚の方を含めると、もう少し増えるということですね。

○事務局（藤田） 新しい利用条件を始めるには、そのあたりを見ながらということになるかと思いますが、パートナーシップですとか事実婚の部分については、それほど数は多くないんじゃないかなと考えています。そういったところは、早めに取り組んでいけるところと
思っていて、受入数の方も見ながら、受入のタイミングについても考えているところです。

○事務局（吉井） この予測を超えても受け入れられるレベルの延命措置を講じる予定でいますので、必ずしもこれギリギリにしか増設しないということではなくて、もうちょっと増やしても大丈夫なようなことを想定して延命措置をします。

○山上委員 わかりました。あと、特に今まで議論が出てなかったところだと思うんですけど、60 ページのところで参考指標が出ていて、必要な経営状況報告を行っている民間墓地・納骨堂の割合を2030年度に100%にするという目標値があるんですよね。私、ここに書いている札幌市墓地等財務状況審議会の委員を6年ほど務めていましたので、その立場でちょっと申し上げますと、その審議会の中でもかなり課題になったのが、実際に経営状況報告を求めても、出てこないんですよ。その実効性のあるようなペナルティとなることがないんですよ。もっと言うと、場合によっては取消ですね。取消はできるんですけど、取消をしてしまうと、結局、市民に対して多大な迷惑がかかるので、実質的にそのペナルティを下せないという問題があります。そうすると、その中でどうやって100%というのを達成させようとしているのかというところが私には委員会6年間いた中で言うとはよく分からないんですが、これはどうお考えでしょうか。

事務局（藤田） 督促をしたり、一時期、出てきてないところに個別に電話がけをして出してもらおうということで、報告率が随分上がった時期があるんですけども、ただ内容的に不十分なものでした。督促というか、こまめな報告を求めるようなことをして、不足分の書類等についても出してもらって、地道な取組になるのかなとは思いますが、罰則という形は、先生がおっしゃるように取りづらいところもあるので、提出が必要だというのが周知ですとか。

○山上委員 しかもその報告は、ある程度の規模になると、毎年報告という話になるので、報告を期限までに出していないと、督促をやっているうちに翌年来てしまうというようなパターンが、自分が審議会にいた6年間でよく見られたパターンだったんですけど、今の話では100%はとても達成できるようには思えないのですが、もう少し抜本的なことをしないと難しいのかなというふうに思っています。この計画について、この指標とするのは全然反対じゃないですけど、抜本的なものを考えていただきたいなということを意見として申し上げます。以上です。

○石井会長 ありがとうございます。皆川委員、お願いします。

○皆川委員 私からはまた同じような話で、ちょっと情けない感じなんですけども、いただいた資料を見ると、まだ、検討します、ということで終わる項目が多々あるんですね。これ

はやっぱり予防線を張っているんですか。検討します、で逃げている印象を受けるんですよ。これはやっぱり計画としては良くないのではないかというふうに感じます。全体的に検討し、本当に検討しかできないものであれば、計画として別に載せなくてもいいんじゃないかなとすら思いますので、精査していただいて、個人的には検討しますで終わる項目については、一掃していただきたいという気持ちがありますので、そこは再度精査していただきたいと思います。それから、意識醸成の関係なんですけども、これは指標が若者と男性で、成果指標が若者、参考指標が男性比率となっています。本文の方には、ターゲットを絞った情報発信・収集で、若者に対しての表現がありますが、男性へのアプローチとか、男性の割合を増やすための策が一切書かれていません。参考指標としている男性割合を増やすために、こういうことをやりますよという内容を本文に記載しないとまずいのではないかと思います。その辺はどうなんでしょうか。以上2点です。

○石井会長 検討のところは、どこら辺が一番気になるでしょうか。

○皆川委員 火葬場はいっぱいありますし、墓地もいっぱいあります。

○石井会長 あるのはもちろん把握しているんですけど。

○皆川委員 具体的に全部拾いきれてませんけども、49 ページに2か所ぐらいありますかね。不具合の解消、構造の検討を行います。事業方式、PFI 事業による実施も含め検討していきます。それから51 ページにも山口斎場の上の方に PFI 事業による実施を検討します。中ほど、総合的に検討する。進んでます。下の方に PFI 事業による実施を検討していきます。他にも53 ページなど、多々あります。

○石井会長 いっぱいあることはもちろんわかってます。

○皆川委員 検討で終わると予防線を張っているのか、決定しますとか策定しますとか、そういった表現にできると思うんですよ。PFI 事業の採否について決定しますとか。そういう書きぶりにした方がいいと思うんですが、検討で終わることを前提にされているような印象を受けます。

○事務局（秋田） 火葬場の取り組みについては、里塚や山口は、この5年間で終わらない取り組みでありまして、それについては検討という言葉を残したつもりであります。

○皆川委員 5年間で検討されて、5年間なりのアウトプットというのを出すんですよ。

○事務局（秋田） 検討した結果は出ますが、最終的な結果はまだ出ないですね。

○石井会長 例えば、検討して方向付けすると言えば、方向付けすることが結論じゃないですか。検討するだと、検討して何も結論は出なかったことも検討したことになるから、おっしゃってる意味は、多分そういうことも含めて、検討という言葉は、どう裁くかをイメージさせないという意味があつて。

○事務局（吉井） 改めて精査させていただいて、計画期間中に方向性を出せるものに関しては、そういった、例えば方向性を決定しますとかいうようなことを入れさせていただいて、ちょっと長期間のスパンで検討しなければならないことで、基本構想から引っ張ってきているものでありますが、こちらは検討を進めますというところで止まるものもあるので、

個々に判断させていただきたいと思います。

○石井会長 役所の文章として、検討自体があってもいいのですが、検討で終わらない書き方をした方が、普通の人が読んだときに分かりやすいということです。それは間違いのないで。

○事務局（吉井） ご指摘を踏まえて、今言ったような方向で、できる限り書けるものは書いていくことにします。

○石井会長 ありがとうございます。中島委員、お願いします。

○中島委員 合葬墓についてなんですけど、澤さんもおそらく同じだと思うんですが、いろんな方から相談を受けることが多いと思います。実は私たちもすごく多くて、おそらく役所の方が思っている以上に合葬墓を利用したい方が多いと思うんですよ。ということは、なくなって3、4年とか、ご主人の遺骨を置いてあって、その奥さんが亡くなった時に、息子さん方が一緒に合葬するとか、そういう計画を持っている方が多々いたもので、その辺、2029年まで持つのかなと思いつつながら、さっきの話では、まだ幅があるという返事だったので、本当に大丈夫なのかなという気は、実はしています。実際、現場ではそういう声が多いですね。それがきっと、役所の方には届いていないですよ、ということがまず1点。それから、火葬場の友引の開場については、この間、我々組織の中でいろいろお話ししたんですが、今の我々ぐらいの60代の年代の方が80代になった時にはどんどん増えていくという予測はしています。その中で、告知の仕方として、友引を開場しましたと広報だけでやっても、なかなか市民に伝わらない。例えば、それを知っている人が言っても、すんなり受け入れられるかという話から、宗教者を利用した方が早いのではないかという意見が出て、我々が言うよりも、宗教者が、友引はそんな迷信でどうだと言ってくれた方が浸透率は良いのではないかというような意見が出ていたので、我々が、信用がないというわけではないのですが、そちらの方も利用すると良いのではないかという話が出ていたので、それは近々あるので、ちょっと伝えておきますということで、私は検討させていただいたのですが、さっき言ったように、直接遺族の方とお話しする機会が多いということで、それ代弁という形で聞いていただきたいということです。以上です。

○石井会長 ありがとうございます。

○澤委員 今の友引の開場のことで宗教者にということでしたが、私も宗派の違うお坊さんたちに言ったことがあるんですよ。そしたら、お坊さんたちはお坊さんたちで友引を利用して会議とかやってるんですよ。

○中島委員 そうですね、実は我々もそうなんですよ。

○澤委員 友引を利用しちゃってるんですよ。浄土真宗なんか迷信として否定してるからだから全然関係ないので、なんで浄土真宗が率先してやらないんだろうっていう感じなんですけど。だから、役所が迷信ですよって、パンフレットとかでもいいので、出してくれたらそれ一番いいなと思って。葬儀社さんって言いづらいですよ。迷信だと言ったのに、後でこんなことが起こったなんて言われたら困りますよね。多分、そういうことは、行政が

そういうパンフレットのようなものを作ってくれた方がやりやすいんじゃないかな。

○中島委員 宗教的な話をする、火葬場から帰ってきてお塩を使っていたんですね。今は使わなくなっている。それも例えば、お寺の会場でもそういう看板を貼っているし、お寺さんが法話の中でも最初の頃は一齐にしていたんです。黙って法話、説教を聞いてもらう時に。それが浸透することによって、どこの箇所でも今、遺族の方から「塩を用意していないの？葬儀屋さん。」という言葉が全く無くなってしまいました。浸透するのが、もう本当に早かったです。だから、そういう方でも利用すれば早いのかな。ただ、会議をするのが我々も大変だという。

○福田委員 今の関連でいいですか。成果指標、なかなか上手にするんだなと思いました。本文の 55 ページに、その友引のことですか、載っていますが、他のところで友引開場にあたっては、今の中島委員と澤委員の話もそうですが、いろんなPRとか、啓発どうするかって、いろんな課題があるわけですね。素人っぽく考えても、そのPRだけじゃなくて、2つあるわけですから、片方ずつやるのかとか、あるいは全部の友引日を対象にするのかとか。いろいろ解決すべき・検討すべき課題が多いと思うんですが、そういうことが何も書いてなくて、今のところ 55 ページだけですね。友引開場について書かれているのは。本文でいろいろ読んだんですけども。

○事務局（藤田） 1 期目の計画で、友引開場の方針が決まって、もう令和 8 年度からは進めていくということになったので、友引開場というのは 2 期目の計画には載せていないので。なので、友引開場についてのことは書かれていないということかなと思います。

○福田委員 1 次計画で、友引開場は目標に掲げていながらできなかったんですね。

○事務局（藤田） できなかったというか、令和 7 年度の計画なので、1 次計画の期間中には友引開場というのは、実際には開場していないんですけど、もう開場するという方針を決めて、時期はこれから詰めていきますけれども、令和 8 年度から開場していくという方向で進んでいますので、それを 1 次計画で達成できなかったというのか、我々は開場するという事で決めています。開場は 8 年度からされているので、2 次計画からは除いているというのは、当初の頃からご議論いただいたところなのかなと思います。

○福田委員 それでは、いつから友引開場やるのですか、令和 8 年度からですか。

○事務局（藤田） 何月からというのは、今調整しているんですけど、令和 8 年度からです。

○中島委員 両方同時に開けるのですか。

○事務局（吉井） 検討中です。まだ確定していません。

○石井会長 中島さんのご意見を踏まえたら、要するに円滑な友引開場というか、友引開場がスムーズに定着する努力をやるのはこの計画のどこかで、むしろそういう意味合いのことをどこかに書いた方がいいんじゃないかっていうことになると思うので、そこはむしろ、関係者を巻き込んで、円滑な推進を図るみたいな、そういう一文を入れると、ご懸念のところについて、読み取ることができると思いますので。入れる場所は、後で考えていただくとして、確かに上手にやっていくことに関しては、いろいろ考えなくてはいけないお話だと思

いますので、そういうふうにごどこかに一文入れていただいて、実際には宗教者をお願いするかどうかは別として、そういうふうにお考えいただければいいかなと思います。

○事務局（吉井） 55 ページの成果指標のところに、友引を開場し、市民の理解を得ながらというくだりがあるので、そこに今のご意見を踏まえた記載をするイメージですね。

○石井会長 盛り込まれてあれば、それでどこに書いてあっても良いと思います。ありがとうございます。廣部委員、お願いします。

○廣部委員 私は途中から参加させていただいているものですから、他の委員の皆さんの意見がすごく反映されて、徐々に文章として分かりやすくなってきているのではないかなというプラスの印象を受けながら見させていただきました。ただ、その中で、今回のスライドの最後のページですね、いろんな文章が分かりやすくなってきていますので、旧設墓地の今後のあり方の検討の部分ですね。私、議論を最初から聞いているわけではないので、あったのか無かったのか分からないところからスタートなんですけれども、多角的に検討することを記載しますということで、この多角的な検討について、何か方向性が既に1つ、2つでも出ているのであれば、例示として示されると、読まれる方としては分かりやすいのではないかなと思いました。石井先生のおっしゃっていた公園化を視野に入れるという話があったので、もしかしたら、そういう議論は今まであったのかなと思ひまして、もしあったのであれば、そういう例示を入れたら分かりやすいかなと思いました。無ければ無いで、このままの表現でいいのかなと思いました。私からは以上です。

○石井会長 さっきの説明だと、公園化には難しい側面があり、場所によって限られた可能性の話で、一般的な市民利用という、もっといろんな使い方を考えるという、そういう意味で、市民利用というふうに入れていただいたというご説明でしたので、逆に言うと、その市民利用の例示として入れるかどうかというのも場合によってはあるのかもしれませんが、言葉としては市民利用という言い方の方が、幅が広いので、そこはそんな感じの方がいいかなと思いますが、検討していただければと思います。どうもありがとうございます。高橋委員、お願いします。

○高橋委員 私からはですね、まず1つ質問と、あと意見的なものです。まず質問ですが、9番の埋蔵可能数を増加させるための措置という合葬墓の件ですが、具体的なものは何かあるのか、もしあれば聞きたいと思いました。次に、これは意見でして、切れ目なくという表現について、もうちょっと柔らかい表現でいかがでしょうか。減ってきたので作ります、みたいに私には見えてしまいます。まあ、その方が皆さんも安心すると思うんですけど、今、合葬墓というのはお墓の返還、墓じまいの受け皿にかなりなってきたていまして、きっと民間霊園からも改葬して平岸に行っていることとかですね。納骨堂に行っているなどというのは、意見を書いてくれる人は、どこに行きますかという設問に答えてくれている人もいますので、こういう受け皿にもなってきたていまして、これから作っても、かなりの勢いで埋まっていく部分があるのかなと。今、やめてしまうということがかなり進んできている部分もあって、この間、関東の霊園の方が真駒内滝野霊園を見に来た時に、やはり返還の数がす

ごいということを知りました。それも合葬墓に移っているということも聞きました。そういうこともあるので、ちょっと話が違ってずれましたが、この切れ目なくという表現がもうちょっと柔らかいと、安定的にと継続的にと、そういうような表現だと嬉しいかなと思っております。あとですね、この本文の36ページの市営霊園の返還の増加ところで、2つの問題点があって、これから先、管理料の収入が減りますという部分があるんですけど、ここを増やすのはおかしいのかもしれないですが、この65ページのところに市営霊園の多面的な活用後の検討というのがありまして、この部分を、空き墓所も活用してやっていきますみたいな、もうちょっとポジティブな部分があったらいいかなと思いました。問題点ではないから難しいかもしれないんですけど、どんどん減って大変なんだということばかり強調されていて、もうちょっとうまく表現できないかなと思いました。

○石井会長 ここはしょうがないですよ、問題ではないから。

○高橋委員 何かあったらなと思ひまして、これは意見です。あとですね、友引の件ですけども、やはりもともと火葬場という施設はあまりお休みというのがどうなんだろうなという部分が大きいかなと思っていました。また、少し話がずれますけども、霊園で、もともと北向きのお墓はダメみたいなのがあったんですけど、円形のお墓を作った時に、最初は北向きの部分を管理用にお墓を作らないで取っておいたんです。しかし、いろいろ意見を聞くうちに、あまり気にしないでいいんじゃないかということで、北向きも設置するようにしたら、特に何の問題もなく進んだりしたものですから。この友引の件も、そもそも、お休みというのもおかしいんですけど、1年間開けるなら開けて、データを取って、少なればメンテナンス日にするとか、そんなような形で進んだらいいんじゃないかなという気はしています。ただ、今回1つも話題には出てないんですけど、これは澤さんとかにも聞きたいんですけども、骨上げという儀式がどうなのかなと個人的には思っていて、これはまた少し乱暴な話になるかもしれないんですけど、その辺も、もしかすると、火葬場の方たちでできたりもするんじゃないのかなって思ったりする時もあるんで、まあ、その辺は今後の話かもしれませんが、私の意見としては、その辺を検討してみたらいいんじゃないかなと思いました。以上です。

○石井会長 最後のやつは、骨上げですか。

○高橋委員 そう、骨上げです。箸渡しがしたいというやつですね。まあ、必要なのかもしれないけど、なくてもいいような。

○澤委員 その職員さんによって違いますね。箸渡ししてくださいって必ず言う人と、どうしますか、って聞かれる人と。

○高橋委員 やりたくない人もいますよね。

○澤委員 何も言わない人もいらっしゃるし。だから職員さんによって違うんだろうって思いました。

○高橋委員 あれを大変ありがたがる人と、うーんという人として、でも断ると大変悪いような、もうちょっとドライな感じでもいいのかなという意見を持っている人がいるのでは

ないかと思っています。

○石井会長 最後の話はさすがに計画に書く話にはならないと思うのですが、運用上で不統一があると、それはそれで。

○上田委員 それによって時間が短縮できるという話になります。

○高橋委員 言葉は悪いですけど、そこが必要なかどうなのか、ちょっと思っておりまして。すごい乱暴な言い方ですけど。

○澤委員 箸渡しも含めて友引のこととか、こういうのは迷信ですよみたいなのが1枚あるといいなって思います。

○高橋委員 時短とかそういう言葉を使うとまた怒られるとは思んですけど。ただ単に、やりたくないという人、嫌な人もいるだろうなと思います。

○石井会長 紙に落とす話にはならないと思うんですけど、せっかくのご意見なので、ちょっと確認だけしていただいて、直すべきところがあったら、運用として整理をしていただくということをお願いします。

○高橋委員 全国初になったら。塩もいらなくなってきたという意見も出ていたので。

○石井会長 まだできないのなら、それをやれという話ではなく、確かめていただいて、みんな違うのなら、極端に言えば意味がないということですよ。少なくともやっている職員によってやり方が全然違うという話だったら、どう統一するかという話は必要かもしれません。

○上田委員 予約システムの方に組み込みますか。骨上げするかしらないか、チェックを入れて。

○高橋委員 でもあれは、宗教の人とか誰が発明したのかなという疑問があります。

○石井会長 そんなの、その場になってどうしますかと言われたって、きっとみんな困るだけですよ。

○高橋委員 箸を持っていくというのはやらなきゃいけないだろうと。

○石井会長 そういえば、そういうことがありますね。

○中島委員 だけど、皆さん、子供の時に兄弟同士でも箸でやったら親に怒られませんでしたか、昔からです。

○高橋委員 具体的な何かがあるのであれば教えていただきたいという質問なので。

○石井会長 計画直接ではないのですが、ちょっとご対応だけお願いしたいと思います。どうもありがとうございます。上田委員、お願いします。

○上田委員 私からは3つなんですけど、1つ目は友引の成果指標でして、多分これがいいのかなというところで、一応私、意見した者として、これで賛同しておこうかなと思いました。そして、2つ目と3つ目っていうのは、ちょっと関連するんですけども、スライド11ページの番号10のところの話だったんですけども、これと3つ目の、先ほどからお話しあった合葬墓の話がほぼ関連しているので、セットでお話しというか質問したいなと思います。前回の時は確かこの札幌市の基本的な墓地運営、市営墓地運営の方針みたいなのが書

いてあって、それがちょっと書きすぎなんじゃないかということで意見を言わせてもらったんですが、多分今回それがバッサリすべて全カットになったと思うんですよ。それによって、先ほどの澤さんと中島さんがおっしゃられたような、その合葬墓に対する市民の過大な期待というのが出てきて、今後よりそういうトラブルが増えるような気がするんですよ。要は全国の自治体の中で、それぞれの自治体の合葬墓の位置づけて、違うわけじゃないですか。本来、札幌市としての合葬墓の位置づけとか札幌市としての市営墓地の運営方針をきちんと書き込んで、うちの合葬墓はこういう方針で運営しているんですと伝えた上で、合葬墓の話がないと、皆さん多分一般的な合葬墓の期待と実際の現実の運用のギャップでいろんな不満が出てくると思うんですよ。なので、全カットしてしまわない方が、その前提はどこかに示しておかないといけないんじゃないのかなと思います。これ、私の本意でもないし、私の個人的な意見ではないんですけど、計画としては書いておくということです。私は、本当は、合葬墓はいろんな人を受け入れてほしいと思っています、拡大してほしいと思っています。だけど、札幌市の方針はそうではないという説明もあったので、それであればちゃんとその方針を書いておかないといけないんじゃないかなって思いました。なので、例えばですけども、計画の中で合同納骨塚という言葉と合葬墓という言葉が混在しているんですよ。なので、1つの方法としては、札幌市は合葬墓ではなく合同納骨塚なんです、その定義として札幌市の墓地運営の方針があって、だから一般的な他の自治体にある合葬墓とは違って、札幌市の合同納骨塚として運営をしていますという前提で書かないと、みんなが一般的な合葬墓の期待を持ってしまうのではないかというのは、今回カットされたことによって余計に感じました。さっきの澤さん、中島さんのお話を聞いていて、それが多分、現実のいろんな皆さんの不満になってきちゃうので、そこは何かしらの対策をしておかないと。多分、これもう埋めようがないですよ、この市民の不満は。

○石井会長 もともとで言うともうそうですよね。私も合葬墓の議論をしているときは、個人的にはもっと広げた方が世の中のニーズにはマッチすると思っていましたが、結局広げるのはごく一部というか、基本的には、結局、ある種引き取り手がいないまでは極端かもしれないけど、それに近い、限定的ですよ。

○上田委員 セーフティネットという位置づけで。

○石井会長 あくまで普通の人は自分でお墓作って入ってくださいというのがあります。

○上田委員 そうですよ。だからそもそも、家族で同じ合葬墓に入ということを前提にされたら困るということが大事じゃないですか。

○石井会長 対応できない人だけ入るための施設だということを、結局ずっと議論して、そういう整理をやったわけだから、私も同じところを感じていて、今議論になったけど、何も書かないと、まるまる緩めて、いろんな人が入れるみたいに取りられかねないというのは、どこにも書いてないから、そういう誤解が生じる可能性があるという、上田先生がおっしゃったとおりだと思います。書き方はどんな形でも、少なくとも現在の運用がこうで、それを弾力化するという議論としての利用条件の見直しだということが分かる必要があります。例

例えば 61 ページのこの参考指標の右側に書いてある内容は、社会情勢を加味し、「札幌市民のためのお墓」としての一端を担うと書かれていて、札幌市民のお墓になっていないじゃんというツッコミがきっと出てきてしまうんですよ。だから、ここもやっぱり書き方を考えないと、本当に市民のことを考えるのであれば、そもそも今の前提から変える必要があるし。

○石井会長 そうですね。セーフティネットですよ。だからお墓、自分で作れない人のセーフティネット。

○上田委員 本来は、この札幌市の方針であれば、市民のためのお墓と書いちゃうと、かなりギャップがあるように感じます。

○石井会長 ありがとうございます。今日の議論で、改めて合葬墓の期待感はずごく高いということを再認識しました。そうだとすると、ちゃんと読んでもらわないと困るので、あまり回りくどいことを書くのはどうかと思いますが、少なくとも誤解が生じないレベルで上手く書いておく必要があると思いますので、是非ご検討ください。

○福田委員 いいですか。今、合葬墓が随分話題になりました。確かに合葬墓に対する期待ってというのは、本当に大きいんだなとよく分かりましたので、行政文章としては分からないわけではないですけども、やっぱり市民に分かってもらうためには、数字で簡単に説明して、だいたい 50,000 体ぐらいは大丈夫なんですと。それで、2028 年度で 48,000 体で、50,000 ～60,000 体は大丈夫だけど、それを超すと困るので、2029 年度には新しいものを作りますってばっちり謳ったらどうですか。それが一番分かりやすいですよ。要するに、市民の不安を解消させるためには、やっぱり分かりやすく書くということが大事なんだと思います。

○上田委員 でも、そこにミスアンダースタンディングっていうか、供給側の意図と需要側の意図が、かなりズレがあるわけじゃないですけど、みんなが入りたいと思っている数の話と、こっちの提供側の考えている「これだけ入れれば大丈夫です」というところに相当のミスマッチがあるわけですよ。なので、数の話をしても、多分これ同じ数の話をしていないんですよ。そこがむしろ問題だと思っています。その家族で一緒に合葬墓に入りたいという人たちが言っている数の話と、セーフティネットとして提供する数の話で、全然多分、意味は違うんですよ。そこにズレがあることがむしろ問題なんです、計画として。

○石井会長 まあ、ズレっていうか、その議論は一旦やめてしまいましたからね。やめたっていうか、セーフティネットであり続けることを前提にしてやめてしまって、今のところそういう結論になってるわけだから。

○上田委員 だから、それが前提なので、その前提をちゃんと説明して理解してもらって。

○石井会長 逆に言ったら、含みを残すんだったら、そういう市民ニーズとかで考える余地があるのかどうかっていう話ですが、今のところは、その少なくとも。急激に受け入れる数が増えたら、それこそスムーズな対応ができなくなることもあるから、パツとは変えられないこともあるのです。といっても、見直すという話も全然していませんからね、この話は。

○高橋委員 でも、合葬墓は、もともと身寄りのない人とか行旅死亡者の人が、今回のデータでどんどん増えていくって書いてますので、その人たちが今度入れないみたいな、本末転

倒な感じもするのですが。

○石井会長 セーフティネットとしての合葬墓はちゃんとキープしなくちゃいけないっていうのが前提です。

○高橋委員 分からないケース以外も、計画には増えているって書いてあるので、ここは何とも言えないなというふうな書きぶりなんです。

○上田委員 それはそう。33 ページのこれがよく分からなくなりました。

○石井会長 できるだけはっきり書かなくてはいけない話というのは、皆川委員がおっしゃった通りなんだけど、それでも書きにくいものはあるので、そこはもう1回整理をしなくてはいけないと思います。

最後に、私だけまだ意見を言っていないんですが、思ってたことが全部出てしまいました。成果指標は、私も作っていただいたものでいいかなと思っています。皆川委員がおっしゃった、できるだけ具体的な方向付けをする文章にするということは、似たような意見を言いながら、十分ではないというようなところだと思うので、少しきちんとしなくてはいけないということを改めて感じました。

一通り皆さんからご意見をいただいたんですけれども、言い残したことがございましたら、お受けします。

○福田委員 じゃあ今日は最後ですので、言い残しがないように言っていますけど、X（旧 Twitter）のことなんですけど、残念ながら目標値には遥か及ばなかったということで、それはしょうがないと思うんですけどね。この扱って、まだ次の計画でどうするかということは、書き込んではいないんですよ。まずは、何故残念ながらフォロワー数が少なかったのかという分析が必要だということと、改めて見たんですけど良いのがあります。例えば、澤さんのところでおやりになった地下歩行空間のイベント。あれ、写真付きで分かりやすく、その他はどうも、要するに市の催しの案内みたいなものとか、そういう案内関係が多くて、若い層に訴えられるようなコンテンツではなかったということが、前々回ですが、廣部さんがおっしゃったように、SNS とかホームページを作っても、若い人に魅力があるというか、関心があるようにしないと、とにかくアクセスしてもらえない。やっぱり問題はそこに尽きるわけで、どうすれば若い人にアクセスしてもらえるかということを考えていかなきゃいけない。それにはやっぱり体制が必要で、簡単なチームというか、緩やかな、市役所内部だけじゃなくて、いろんな人も含めてチームを作ってますね。それで意見交換して、こういうのはいいよ、ああいうのはいいよ、というようなことで、考えていくという姿勢が必要ではないかなと思います。だから私、X を捨てる必要はないと思ってますよ。あればいいっていうもんでもないですけど、コンテンツを投げてやる背景として、やっぱり市役所内部だけじゃなくて、いろんな人で報道チームみたいなのを作って、定期的に相談するとか、そういうことが必要だなという気がします。そのためにはX って、いろいろありますけど、これだけ選挙でX が使われている時代です。これを捨てるというのは、やっぱり時代に逆行しているし、それをどう使っていくか、そういう体制づくりというのは、一言二言触れてもいい

いのではないかなというふうに話を受けています。それから、これ感想なんですけど、19 ページでは、比較的若い世代など、今まで葬送に関心が薄かった層を対象としている。若い層にどうするかということなんですけど、ここはここまで断定しなくてもいいのではないかと、というのは前回、上田委員と澤委員から大学生の話をいろいろ聞きましたけど、必ずしも若い人だから葬送に関心が薄いとも言い切れない。例えば、別の話をすれば、今の前期高齢者あたり、私も含めてなんですけど、そういう世代だって、特に男性あたいは関心の薄い人も結構いるわけですね。それは何故かという、高度成長期を背景とした環境で育った世代で奥さん任せにしている、そういう層もいるわけで、逆に若い世代の間でも、何年か前に若い女性が神社にお参りに行くことがブームになったことがあります。今の状況はちょっとわかりませんが、今、若い人に受けているものとしては、割と超自然的なアニメであるとか、そういうものが受けていて、これを特に、葬送は今回のこの協議会の中の話し合いでは幅広く考えているわけですから、例えば葬送の関連で言うと、その死とは何ぞやとか、死生観とか、そういうようなところに比較的若い人の関心があるのかなっていう感じがしています。自分も当事者なので、前期高齢者の男性って、若い頃そんなに関心を持てなかったなっていう感じもしてるので、各世代で今まで関心が薄かった層を対象にいろいろ情報発信をしていくとか、企画を打ち出すとか、そういうような表現で少し丸めておいて、若い人だから関心がない、年寄りだから関心があるとそういうものでもないような感じがしますんで、その辺ちょっとご一考いただければと思います。以上です。

○石井会長　ここら辺は、前回の中であったような気がしますので、今いただいたこともできるようにご検討いただければと思います。

○上田委員　すみません。大変申し訳ないんですけども、私、今、冷静になってですね、先ほどいろいろ言ったんですけど、私さっきの発言を全部撤回しちゃおうかと思ひまして。というのは、少し冷静になって考えてみると、あえてこうやって曖昧に書いておいて、市民からもいろんな声が上がってきて、それによって将来的にいろんなことがよく変わっていくのであれば、むしろこのままの方がいいのかもしれないと思ったんですよ。前提をきちんと書いて、札幌市はここまでしかやりませんって書くよりも、ここは修正しなくていいと思いました。

○皆川委員　今の話に関連してなんですけども、いろんなテーマがあって、やっぱり市役所としてどっちに行きたいのって、特に施設管理課でするので、やっぱり施設を管理運営するという切り口で、札幌市がどっちの方向に行きたいのかを定めてほしいです。もし定められていないのであれば、市民の意向を聞いてから考えたいというのであれば、それはそれでいいんですけど、やはり担当セクションとして、施設管理運営はこっちの方向に持っていきたいというのを持って、こういう計画を作っていただきたいなと思います。イベントでもなんでもいいんですけど、人を呼ぶのもいいんですが、それは何のためにやっているかという、施設管理と運営につながるものだからやるんですという意識を持っていただきたいと思います。

○石井会長 上田さんがおっしゃったところはどっちが良いでしょうね。まあ、ちょっと事務局にもお考えいただいて、是非反映していただければと思います。一応、今日が会としては最後なので、今日出していただいた部分での見直しについて、できたものについては皆さんに見ていただくということにしたいと思いますけれども、修文については、私と事務局にとりあえずお任せいただいて、やらせていただくという形でよろしいですか。

○各委員 お願いします。

○石井会長 すみませんが、ちょっと集まるのは厳しいと思いますので、預からせていただいて、最後に上田さんがおっしゃったことで大変やりにくいですが、よく考えてやらせていただいて、後で皆さんにご覧いただきたいと思います。そんなにいろいろ出ないかなと思っていた割には、今日もいっぱいいろいろなご指摘をいただきましたので、相応の修正にはなると思います。これでよろしゅうございますでしょうか。では、事務局からお願いします。

3. 閉 会

○事務局（藤田） 事務局からですが、最後に今後のスケジュールについてお話しします。今回、協議会の方でご審議いただいたご意見をもとに、この計画案を修正させていただきました。それを今後、庁内会議を経て進めていく予定です。年末12月から1月頃と考えていますが、パブリックコメントを実施し、3月に計画策定ということで進めていく予定です。それから、最後になりますが、皆様、今回の会議をもって任期満了となります。令和5年8月から2年間、札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会の活動にご尽力いただきました皆様に改めてお礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。事務局からは以上でございます。

○石井会長 ありがとうございます。毎回大変闊達なご意見をいただきましたことにつきまして、私の方からも御礼を申し上げます。いい形でこの計画をまとめていただいて、市民にとって親しんでいただける形で計画ができれば大変ありがたいと思います。それでは、これを持ちまして第12回総会を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。